

# 環 — 木・水・人がめぐる建築

この建築は、三つの環でできている。

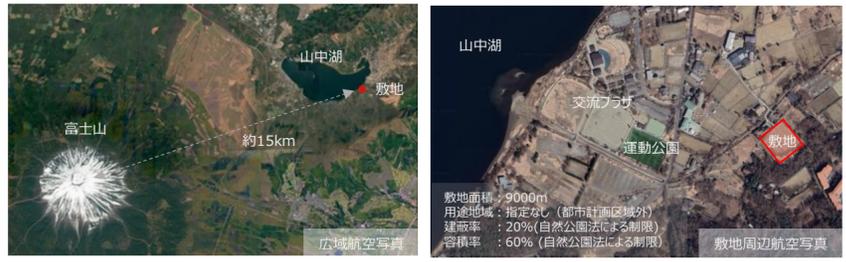
- 木の循環 — 森から伐り出されたCLTが建築となり、やがて家具や燃料として再び森へ還る。
- 水の循環 — 屋根に降った雨が地中をめぐり、畑を潤し、再び大地へ染み込む。
- 人の環 — 入居者と地域の人々が食堂や畑を通して出会い、支え合いながら生きる。

それぞれの環が重なり合う場所に、新しい「暮らしのかたち」が生まれる。



## 1. 敷地・背景

**自然と人の活動が折り重なる多層的な環境**  
 本計画地は、山梨県南都留郡山中湖村の湖畔からひとつ山側に入った、静かな高台に位置している。北西には山中湖が広がり、その手前の幹線道路沿いには地域住民が集う交流館や運動公園、ペンションが点在する。南西には雄大な富士山を望み、東から南にかけては落ち着いた森が広がるなど、自然と人の暮らしが折り重なる豊かな環境が特徴である。  
 山中湖村は、豊かな森林資源と水景に恵まれた観光地である一方、観光産業への依存から過半数の高齢化が進行しており、日常と観光がゆるやかにつながる新たな拠点づくりが求められている。本計画は、こうした背景のもと、山中湖を中心とした「自然の環」に呼応し、その内側に人の暮らしとコミュニティがめぐる「人の環」を描き試みである。



## 2. コンセプト

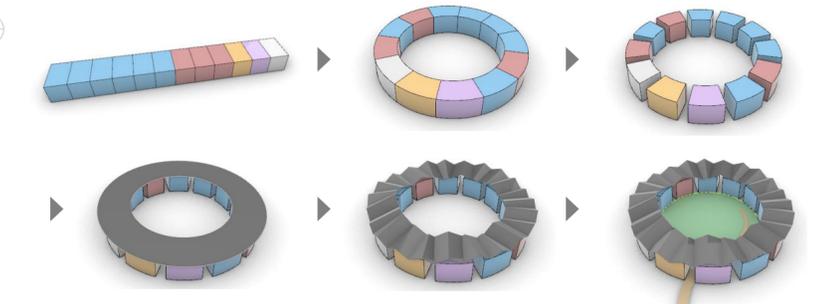
**「めぐりながら暮らす、環のまち」**  
 本計画では、CLTでつくる建物群がひとつの「環」を形づくり、畑・共用キッチン・ウェルネス棟・住まいがゆるやかにつながる「循環型の暮らし」を描いている。中央の畑で育てる、共用キッチンでつくる、縁側で語らう、庭で分かち合う — そうした日常の行為が環をめぐるように運動し、互いに支え合いながら生きる「小さなまち」の営みが自然に育まれる。CLTの木質空間は、包まれるようなスケール感と家具のように自由に使いこなせる柔軟さをあわせ持ち、人と人の距離をやさしく調整する「間」の建築となる。建築そのものが暮らしの循環の一部となり、人と自然が共にめぐる「環のまち」の原型をつくり出すことを目指した。

## 3. 構成・配置計画

**風景と暮らしを包み込む「円環状の輪」**  
 敷地の地形に沿って、「9戸の住棟（単身者用6戸・夫婦用3戸）と共用キッチン棟、ウェルネス棟、WC」をゆるやかに連ね、円環状に配置した。それぞれの棟のあいだに生まれる余白は、人と人が出会う「通り庭」のような外部空間となり、住民と地域の交流を育む。屋根はCLTモジュールに合わせた3種類のパネルで構成し、棟をまたぐように架けられた折れ屋根が全体を大きな庇の輪に包み込む。南向きの深い庇は、冬季の低い日射を取り込み、夏は木陰をつくることで、一年を通して快適な木の軒下空間を形成する。環の中央に共用畑と小道を設けることで、住民と地域の人々が自然に交わる。デッキレベルの段差はそのままベンチや縁側となり、休む・語る・眺めるといった行為が風景と一体化する。まるで一つの屋根の下で暮らす大家族のように、緩やかな輪が人のつながりを包み込む。

- ダイアグラム
- 1.各棟を直線状に配置
  - 2.直線を円環状に繋げ、全体をひとつの輪にする
  - 3.棟間に隙間を設け、交流を生む通りみちを形成
  - 4.それらをひとつの屋根で覆い、緩やかな一体性をつくる
  - 5.周りの風景に呼応する折れ屋根とし、光と風が通う「環の建築」をつくる
  - 6.中央に畑と小道を設け、住民と地域の人々が自然に出会う場を生み出す

- <凡例>
- ：単身者用住戸
  - ：夫婦用住戸
  - ：ウェルネス棟
  - ：共用キッチン棟
  - ：WC



## 4. モジュール・物流・構造計画

**CLT特性を最大化する折れ屋根構造**  
 構造は、厚さ210mmの杉CLT壁と150mmの杉CLT屋根パネルによる折れ屋根構造とした。CLTの特性を最大限に活かすため、パネルは可能な限り大判を使用する一方で、輸送時に特殊車両許可を不要とするため、最大幅2.5m・長さ12m以内に寸法を制限している。本計画で用いるCLTは、富士北麓地域のスギを主体とした山梨県産材を想定しており、加工・輸送距離が短く、CO<sub>2</sub>排出量の削減にも寄与する。マザーボード（3m×12m）から端材が極力出ないように3種類のパネル形状を設定し、現場で同寸法の2枚を接合して平板モジュールを構成する。これにより、CLTの歩留まり・輸送効率・施工精度を同時に高めている。地組みで接合した2枚組のCLTは、斜辺長さを12mで統一しており、現場ではそのモジュールを組み合わせて折れ屋根を構成できる。折れ屋根形式は構造的剛性を高めるだけでなく、屋根面の角度が周囲の山並みや富士の稜線に呼応し、構造の合理性と風景への調和を同時に成立させる。素材の特性と地域の景観が響き合う、木質構造ならではのモジュール構成である。

## 5. 施工

**CLTのプレハブ性を活かした省力施工**  
 本計画では、CLTのプレハブ性と大判性を活かした省力施工を採用している。CLTパネルは工場でのプレカットを行い、現場では金物・ビスによる乾式接合で組み上げることで、現場加工を最小限に抑えている。屋根は、2枚の大判CLTパネルを地組みで接合したユニットとして製作し、クレーンにより上棟する方式を採用。地上で精度よく組み立てることで、折れ屋根の角度と接合精度を確保しながら、4～5t級のユニットを安全かつ効率的に架設できる施工計画とした。上棟時には、システム支保工と押し引きサポートを併用し、屋根ユニットの角度を仮固定しながら耐力壁に設置。これにより、高所での接合作業を最小化し、安全性の確保と施工精度の向上を両立している。ユニット化と乾式工法により、施工誤差の低減・現場作業量の削減・工期短縮・品質の均一化を同時に実現し、CLTならではの合理的な建て方を追求した計画である。

